

令和2年度 自己評価表

教育方針	創造性豊かな思考力・判断力と実践力を身に付け、自他の人権を尊重し、国際的視野に立つ社会的な連帯意識を培うとともに、個性を伸ばし、誠実で剛健な気風を養う。	重点目標	「自ら学び、鍛え、考える力の育成」 1 自主的な学習態度の確立 2 基本的な生活習慣の育成 3 人権尊重意識の高揚 4 部活動・ボランティア活動への積極的な参加
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策
学習指導	教科指導の充実	実験・実習等体験的な授業も取り入れ、分かるまでの個別指導を実施する。	A	実験・実習に関しては93%、授業内容の理解に関しては、86%の生徒が「できている」「まあまあできている」と回答している。	授業内容をよく理解できていると回答した生徒の割合は50%程度で、視覚的な教材を使用するなどさらに工夫が必要である。
		特に1年生に学習方法や授業への取り組み方の細かな指導を行い、学習態度の基本を徹底する。	A	学習のしおりを活用して、授業への導入を行っている。習熟度別のクラス編成で、学習内容の理解を図っている。	学習意欲には大きな幅があり、二極化が進んでいる。極端に学習意欲の低い生徒も増えてきている。入学後により丁寧な指導が求められる。
	保護者との連携	生徒の学習状況が十分に理解できるような資料等の工夫・改善に努める。	B	校務系システムの通知表は以前のもの比べて情報量が減っている。懇談会では、担任が保護者に細かく説明している。	必要に応じて、普段から家庭と連絡を取り合い、情報交換に努めたい。三者面談の際には、丁寧に説明していきたい。
	家庭学習の充実	計画的に家庭学習に取り組めるよう合理的な量と質の課題を講じる。 家庭学習時間を、普通科180分以上・商業科90分以上となるよう指導する。 普通科 A:180分以上 B:170~180分 C:160~170分 D:150~160分 E:150分未満 商業科 A:90分以上 B:80~90分 C:70~80分 D:60~70分 E:60分未満	B	類型や習熟度に応じて、計画的に課題が課せられているが、生徒の取組にはムラがある。	学力の底上げには、単純作業にならない課題となるよう工夫が必要である。また学習の目的も明確に示す。
生徒指導	個別指導の充実	三者面談・個人面談を年間6回以上実施するとともに、日常的な生徒との対話や積極的な声掛けを重視する。 A:6回以上 B:5回 C:4回 D:3回 E:2回以下	A	定期的面談に加え、必要に応じて面談ができている。担任以外にも学年主任や課長が面談に加わることもある。	担任が面接をする時間確保については配慮が必要である。
	生活習慣の確立	基本的な生活習慣の確立によって、出席率を98.5%以上にする。また、5分前登校時の指導者を年間のべ200名以下とする。 A:98.5%以上 B:98.4% C:98.3% D:98.2% E:98.1%以下 A:200名以下 B:201~220名 C:221~240名 D:241~260名 E:261名以上	出席率 B 5分前 E	2学期末時点での出席率は、98.4%であった。1年生も2学期以降欠席が増えた。5分前登校時の指導については数値目標を超えた。	クラス担任、教科担任、部活動など、学校生活のあらゆる場面で生活指導が必要である。
		平素から端正な身だしなみを意識させ、身だしなみ指導合格率95%を目指す。 A:95%以上 B:94% C:93% D:92% E:92%未満	C	1月末までの身だしなみ合格率は93.2%であり、昨年度より合格率が下がった。原因はコロナ禍(休校)で5月の身だしなみが実施できず、その次の回の身だしなみでの不合格者が増加したためと考えられる。	身だしなみ指導のときだけでなく日頃から継続した指導をしていきたい。また、不公平感を与えないように、教員の意識統一にも取り組む。
	保護者との連携	普段から家庭との連携を密にして、保護者との共通理解に努める。	A	家庭訪問や細かな電話連絡ができている。	今後も共通理解に努めていきたい。
	交通安全指導の充実	登校時の交通安全指導を充実させ、校外での交通安全についての意識の高揚を図る。	B	登校中の自転車と車の接触事故は数件あったが軽傷であった。	事故を未然に防ぐためにも交通ルールの遵守やマナーの向上など、今後もいろいろな場面を通して、交通安全意識の高揚を図っていきたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策
進路指導	就職指導の充実	就職希望者の就職決定率を100%にする。 就職決定率 A:100% B:90～99% C:80～89% D:70～79% E:70%未満	A	就職内定率100%が達成できた。	就職試験や就職後に必要な基礎学力を付けさせるように努める。
		商業科では各種検定において、1年生3級・2年生2級をそれぞれ2種目以上取得させる。3年生は、1級を1種目以上取得させる。 3学年全体での平均で A:85%以上 B:70～84% C:60～69% D:50～59% E:50%未満	A	1年生94.6% 2年生85.7% 3年生92.3% 全体で90.8%の達成率である。	・継続的な学習への取組強化 ・適切な課題配布、家庭学習時間の確保 ・検定直前対策（全体指導、個別指導）の強化
	進学指導の充実	進学希望者の進学決定率を100%にする。 進学決定率 A:100% B:90～99% C:80～89% D:70～79% E:70%未満	B	現時点で進学希望者の約90%の生徒が進学先が決定している。残りの生徒たちは国公立私立大学への進学に向けて努力している。	進路ガイダンスや個別指導を充実させ、目標実現に向けて努力できる生徒を育成する。学力を向上させることも重要である。
		国公立大学の合格者数60名以上を目指す。 国公立合格者数 A:60名以上 B:45～59名 C:30～44名 D:15～29名 E:14名以下	B	総合型選抜、学校推薦型選抜で国公立大学の合格者は45名で、共通テストの結果を考えると、よく頑張っている。	共通テストやポートフォリオの導入など新しい制度の情報共有する必要がある。
特別活動	学校行事の充実	クラスや学年の枠を超えた学校行事を通して、人間関係の構築を積極的に図る。	A	多くの大会や行事が中止になる中、グループマッチ、運動会、文化祭等の各種行事を通して生徒たちは様々なことを学ぶことができた。	来年度もこの影響は残ると考えられるので、適切な対策をして、生徒たちが貴重な体験をできるように工夫し、さらには学校の魅力化に取り組んでいかなければならない。
	部活動の充実	文武両道を旨とし、部活動加入率を80%以上にする。 A:80%以上 B:78～79% C:76～77% D:74～75% E:74%未満	A	多くの生徒が文武両道を果たすべく日々努力することができた。部活動に加入している生徒がその他の場面でも中心となって活動してくれている。	勉学と部活動を両立できるような環境作りをこれまで以上に心がけていかなければならないと考えている。
		県高校総合文化祭への出場5部以上、県高校総体への出場180名以上を目指す。 A:5部 B:4部 C:3部 D:2部 E:1部以下 A:180名以上 B:170～179名 C:160～169名 D:150～159名 E:150名未満	高文祭 B 県総体 中止	県総体が中止になるなど、生徒たちの活動を発表する場が失われ本当に残念な思いであった。このような状況の中でも生徒たちはよく努力し、成長した姿が見られた。	生徒たちが日々の取り組みの成果を発揮して目標を達成し、成長につなげられるようにしっかりと指導していかなければならないと考えている。
		全国大会出場延べ10部以上を実現する。 A:10部以上 B:9部 C:8部 D:7部 E:6部以下		多くの大会が中止となり、出場数は少なくなった。	来年度も影響は考えられるが、目標を達成できるように、日々の取り組みを大切にしていきたい。
ボランティア活動の充実	ボランティア活動に力を入れ、地域社会との交流を積極的に行う。	C	このような状況でボランティア募集の数は限られていたが、生徒たちは積極的に参加し、貴重な体験をすることができた。	来年度も同じような状況が考えられるが、可能な限り生徒たちが貴重な体験をできるようにしていきたい。	
業務改善	職場環境の整備と適切な勤務時間	職場環境の整備を図り、時間外勤務上限月45時間・年間360時間以内を目指し、時間外勤務時間が月80時間を超える教師の割合を「0」にする。 A:0% B:1～5% C:6～10% D:11～15% E:16%以上	E	本校では、半数弱（約44%）の教員が時間外勤務時間が80時間を超えていた。100時間を超える者も数名いるので、健康状態等が心配される。	勤務時間と仕事量が釣り合っていない。勤務日の残業や週休日（土日祝日）の時間外超過が不可避である現状を鑑みながらも、校務等の整頓や合理化により、勤務の均一化を図り、目標達成に向けて努力していきたい。

※評価は5段階(A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった)とする。